

自分の思いを音楽で表現する生徒の育成 ～リズムアンサンブルによる創作活動を通して～

1. 設定理由

東日本大震災の影響により、今まで経験したことのない大きな不安を抱えている。人と人との助け合い、支え合いの大切さをより強く感じ、生きる喜びや勇気をもとうとがんばっている。このような状況において、豊かな人間性を育み、知性、理性、感性の調和のとれた人間形成がますます重要になっている。また、インターネットや携帯電話を使ったコミュニケーションの増加に伴い、子ども同士、人間同士の会話のやりとりも減っており、それらが新たな社会問題を引き起こしているという事実も報じられている。そこで、音楽活動を通して生き生きと表現する生徒を育成したいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

〔仮説1〕

創作活動において、仲間と協力してリズムの組み合わせや変化などの体験ができるような場を設定すれば、音が音楽になる楽しさやよさに気づき、表現することへの意欲が高まるだろう。

〔仮説2〕

リズムアンサンブルにおいて、俳句を用いた創作活動を行えば、音楽と言葉の関わり方に意識がもて、自分の思いを表現する幅が広がるだろう。

3. 研究内容

- ①ハンドクラッピングによるアンサンブル
- ②俳句によるリズムアンサンブル

4. 結論

- 工夫したリズムの組み合わせで、音が音楽になったことを感じ、音楽活動への関心を高めることができた。
- 俳句に込められた思いに気がついたことで、思いを引き出し表現に活かすことができた。
- 日本語のもつ言葉の抑揚のつけ方で伝わり方が違うことを理解したが、思うように表現するのはまだまだ難しい。